

令和2年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立黒井小学校
-----	-----------

○目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p> <p>地域に誇りを持ち 未来を切り拓く 黒井っ子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立 夢や希望を持って主体的に取り組む子 ・協働 人を大切に、集団の中で自分を活かせる子 ・創造 自己表現力・チャレンジ精神を持って挑戦する子 	<p>本年度の重点目標</p> <p>I 次世代を生き抜く学力を身に付ける。(言語活用能力/情報教育/外国語教育/主体的体的に取り組む態度)</p> <p>II 健やかな心身をつくる。(含、感染症対策)</p> <p>III アイデンティティを確立し感性を磨く。(黒井の歴史文化/人権感覚など)</p> <p>IV 組織的な学校運営の実現</p> <p>V 教職員個々のスキルアップ</p> <p>VI 学校運営協議会を活かした活動</p>
---	---

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	○学校の取組状況と改善の方策 A =アンケート結果 →次年度への課題
学校運営	開かれた学校づくり	(地域)社会とつながっていく、教育課程や取組を構築する。	A	<p>○学校運営協議会が主導し、熟議で出された「コミュニケーション能力の育成=挨拶の慣行」をあいさつ旗のデザイン募集～設置により呼びかけた。自治会や新聞掲載等の啓発で多くの方と課題意識を共有できた。</p> <p>A保護者や地域との協働を進めていると答えた保護者。96%</p> <p>→今後、それぞれの取組を進め、活性化につなげる。学校では児童会などの自治活動の場面で主体的に考えさせていく。</p> <p>○コロナ禍であっても、地域教材・人材の活用を今しかできないことと捉え、可能な限り行った。特に黒井歴史学習、地域の願いを聞く(若人会)、黒井城祭での学習発表で児童の変容が大きかった。</p> <p>A地域学習や体験的な学習を取り入れたと答えた教員。100%</p> <p>黒井の地域や人のことが好きだと答えた児童。90%</p> <p>→社会や生活と直結していくように学習を組み立てる。</p>
	組織運営	児童の課題を明らかにし、学校の指導方針を揃える。	B	<p>○組織対応では、学習・生活指導の両面で、学校全体の方法や目的をそろえた学校経営により、6年間を見通した児童の育成が進んでいる。また、情報共有を徹底し、今や担当者が一人で問題の対応に当たることがないというほど組織対応が日常化してきた。課題の早期解決につながっている。</p> <p>○家庭との連携では、「分かりやすく迅速に」をモットーに情報発信を行った。しかし、多くの参観行事が中止になり、家庭との連携、意思疎通ができていない不安な面もある。</p> <p>A困ったとき先生に相談すると答えた児童。87.5%</p> <p>学校は相談しやすい関係づくりに努めていると答えた保護者。85.3%</p>
教育課程	指導方法の工夫改善	対話的な学びを通して、児童の思考を深める授業を研究する。	A	<p>○相手の考えを聞き、自分の考えを深める国語科の授業研究を6回実施、内1回は大学教授を招聘し指導助言を受けた。他の教科でも教科の本質において考えさせる授業が増えている。また、学校生活のあらゆる場面で言語活用能力に重点をおいた指導ができた。</p> <p>A学校の授業は楽しくわかりやすいと答えた児童。90%</p> <p>丹波市定着度調査(3.4.5.6年/国算)において正解率が概ね全国平均を上回った。</p> <p>→教職員が入れ替わっても継続できるよう研修を続ける。</p>
	指導方法の工夫改善	学力保障	A	<p>○2～6年生算数で少人数授業(1学級を2つに分ける)を実施した。児童が発表や質問を活発にするなど、より主体的に学習する姿が見られた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に伴う、学習指導員やその他の人的配置事業をフル活用し、つまづきを解消するなど個に応じた指導を行った。</p> <p>→臨時休業による履修の遅れを、週時程の変更、夏季休業日の短縮、授業の工夫により解消し、今年度の教育課程は全て履修の見込みである。</p> <p>→1年生において臨時休業による影響が感じられる。次年度に引き継いできめ細かな指導をしていく。</p>
課題教育	特別支援教育	共生社会の実現をめざす。	B	<p>○児童個々の支援方法について教職員間の共通理解を図った。一人一人の児童生徒の教育的ニーズを踏まえた適切な対応が進んだ。また、保護者(含む就学前)の悩みや相談には、積極的に関係機関と連携し、具体的な改善策を提示することができた。</p>
	次世代を生き抜く学力の推進	情報教育 外国語教育等の推進。	B	<p>○教職員の研修やICT機器の授業での活用を年度当初より計画的に行い、1人1台のタブレット貸与に効果的につなげることができた。現在、全ての児童が家庭でもオンラインで学校の学習を続けられる環境が整った。</p> <p>→今後、指導の有効性や心身への影響も注視しながら、児童が主体的に取り組む授業展開を生み出していく。</p> <p>→情報モラルの指導計画を作り、実施していく。</p> <p>○英語助手や指導員と担当者の連携が取れ、人とつながりコミュニケーション能力を高める外国語(英語)教育が進んでいる。</p>

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
(A)が適切な評価である
・挨拶の取組が前に進んだ。地域に、取組の概要が伝わった。今後、コロナの終息を見て、熟議を再開し、積極的に取り組んでほしい。
・参観の機会が減り、自分の子どものことしかわからない。HPで、他の児童の様子を見ている。
・コロナのおかげで、子どもたちが成長できた面もある。すべきことをし、守るべきことを守る。コロナも悪者扱いだったが、学校からの人権にかかわる動画教材も家庭に提供され、いい教材となった。
(A)が適切な評価である
・組織対応の体制がつけられていることが、いじめや不登校等の問題の早期解消につながっていると考える。
・臨時休業の時期を含め、対応を迅速に示したことで家庭との連携が保てたと感じている。
(A)が適切な評価である
・児童には対話的な学びを実生活でも使えるようになってほしい。例えば、遊びを決めるときや、縦割りや上級生が下学年の児童を褒めるときなど、日々の生活で活かせるともっと楽しく過ごせる。
・これからは「考え」を「表現する」ことが重要視されてくる。職員が入れ替わっても研修を継続していくことはとても大切である。
(A)が適切な評価である
・臨時休業期間も早い対応がありがたかった。
・学習は自分が行動しようと思わないとできない。させられていることからの脱却は自分がこうなりたいとか、こうしたいという思いが原動力になるはず。
・学校アンケートで、将来の夢を持っている子が少し減っている。また、保護者の認識はそれよりも低い。家庭対話のきっかけを作るとよい。
(B)が適切な評価である
・個々への対応がどれだけ堅実にできているかが大切になる。全職員の共通理解については、ずっと継続してほしい。
(B)が適切な評価である
・情報の選別やモラルについて小学生の段階から理解させてほしい。学校と家庭の両輪で、大人も知っていくことが必要である。
・タブレットを使うことが目的になるのではなく、主体的な学習や心の教育への活用、また、教員の働き方改革の観点からも活用してほしい。
・情報教育についての情報提供があると、家庭でもサポートしていける。

※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育 ※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善

自己評価の実施方法についての評価

学校アンケートの肯定的な数値を「どちらかというと思う」を除いて「そう思う」のみを本当の評価としてとらえてはどうか。そのことによって、更にお互いが向上するために本気で教育にとりくんでいけるのではないかと。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

学校評価の在り方を検討し、学校の課題があぶりだされるように工夫したい。家庭や地域が、広い視野で子どもの成長をとらえていただいているので、社会や生涯学習につながる学力の形成を図れるよう、次年度の学校経営方針を立てたい。

丹波市立黒井小学校 校長 内田 順子

学校関係者評価のまとめ

おおむね良好である。本年度の課題を整理し、次年度につないでいただきたい。